

日本移民学会第 34 回年次大会プログラム

【日時】：2024 年 6 月 22 日（土）・23 日（日）

【会場】 同志社大学・烏丸キャンパス志高館

【問い合わせ先】 大会企画委員会：iminkikaku@gmail.com

【主催】 日本移民学会

大会企画シンポジウムテーマ：
ニューカマー外国人の半世紀：フィリピン人移民研究の視点から

戦後から 1970 年代後半まで、日本における外国人問題は主に、日本が戦前に統治していた朝鮮半島・台湾出身者への統制的な入国管理政策による人権問題であった。これらの人びとはいずれも日本統治時代には外地戸籍の日本国籍者であった。1952 年、人々は日本政府からの通達により国籍を剥奪され、「外国人」となった。いわゆる「オールドカマー」とよばれている人々である。

そして、1970 年代後半から 1980 年代前半にかけて、沖縄を含む日本にある米軍基地の付近では、多くのアメリカ兵を客層としたライブハウスがフィリピン人出稼ぎバンドマンの出演場所となってきた。ベトナム戦争終結後、ベトナムを中心とするインドシナ半島からの難民が多く来日した。これ以降に来日する外国人たちが「ニューカマー」とよばれるようになった。

この企画では、出稼ぎバンドマン、女性エンターテイナー、国際結婚移住女性として約半世紀にわたり来日し、定住しているフィリピン人、そして、日本で生まれ育った二世たちに焦点を当て、「ニューカマー外国人」の過去・現在・未来について考えたい。

大会企画委員長 永田 貴聖

開催校企画シンポジウムテーマ：
地域史に見出すグローバルな気づき
——移民母村における史料の掘り起こしと次世代育成への試み

近年、国民国家を基本単位としない歴史学研究の発達が目覚ましく、グローバル・ヒストリーやアトランティック・ヒストリー、トランス・パシフィック・ヒストリーといった越境的パラダイムの中で国家史や民族史を再考する動きが活発になっている。日本のように国民国家史観が極めて根強い国において、一般市民の歴史観を構築するパブリック・ヒストリーに移民史の視点から介入することは、今後のグローバル世界を担う次世代に広い視野を授けるための歴史研究の最前線に連なる試みであると言える。本シンポジウムは、和歌山県・滋賀県・沖縄県における移民母村における地域史掘り起こしの動きについて、非会員との交錯という視点から検討する。具体的には、以下の 2 部に分けて報告を聞き、更なる対話を促したい。①（研究報告 25 分＋質疑応答 25 分）原裕昭氏（沖縄県立図書館）に、国内外からの依頼に応じて沖縄県立図書館でおこなわれている移民ルーツ調査（Finding Okinawan Roots）の現状を聞く。②（事例紹介ラウンドテーブル：1 県 20 分×3）沖縄県、滋賀県、和歌山県の移民母村をめぐる地域史掘り起こしに関する事例紹介。実際に実践に関わるそれぞれのコミュニティ関係者にペアとなって事例を紹介してもらった後、参加者とともに自由に意見交換を行なう。※開催校シンポジウムは一般公開いたします。

開催校 南川 文里

■ 大会第1日目：6月22日（土）

- 12:30 ~ 17:00 受付（1階南側オープンスペース）
13:00 ~ 17:00 大会企画シンポジウム（1階SK112）
タイトル：ニューカマー外国人の半世紀：フィリピン人移民研究の視点から
趣旨説明・司会：永田 貴聖（宮城学院女子大学）
報告1. Johanna Zulueta（東洋大学）「占領下沖縄に生じたフィリピン・沖
縄間の移動とその後（仮）」
報告2. 安里 和晃（京都大学）「フィリピンパブの盛衰に関する社会学的研
究（仮）」
報告3. ラボルテ 雅樹（とよなか国際交流センター）「フィリピンルーツ二
世からみた現在の在日フィリピン人・外国人が抱える問題（仮）」
コメント：高畑 幸（静岡県立大学）、阿部 亮吾（愛知教育大学）
17:10 ~ 18:10 総会（1階SK112）
18:10 ~ 19:30 交流会（1階SK112、茶菓のみ）

■ 大会第2日目：6月23日（日）

- 9:00 ~ 17:00 受付（1階南側オープンスペース）
9:30 ~ 12:05 自由論題報告 6会場（1階SK102~SK107）
12:15 ~ 14:15 ラウンドテーブル 8会場（1階SK102~SK109）
14:30 ~ 17:00 開催校企画シンポジウム（1階SK112）
タイトル：地域史に見出すグローバルな気づき——移民母村における史料の
掘り起こしと次世代育成への試み
司会：和泉 真澄（同志社大学）
登壇者紹介：河上 幸子（京都外国語大学）
報告 原 裕昭（沖縄県立図書館）「世界のウチナーンチュと沖縄を繋ぐ沖
縄県立図書館の取り組み」
事例報告ラウンドテーブル
「沖縄の事例」
金城 さつき（公益財団法人 青年海外協力協会）
喜久里 瑛（八重瀬町教育委員会 八重瀬町史専門部会専門委員）
「滋賀の事例」
堀部 栄次（米原「磯郷土史クラブ」）
濱川 祐次（米原「磯郷土史クラブ」代表）
「和歌山の事例」
三尾 たかえ（NPO 法人日ノ岬・アメリカ村 カナダ・ミュージアム）
三尾 雅信（NPO 法人日ノ岬・アメリカ村 語り部部会）
出石 美佐（NPO 法人日ノ岬・アメリカ村 語り部部会）
17:10 ~ 18:00 理事会（1階SK101）

◆自由論題報告

A 会場（1階 SK102）		司会：尾上 貴行、園田 節子
山本 桂（神奈川工科大学）	戦前期訪日見学団旅行に関わる女性たち：主婦の友社主催「大学卒業生祖国見学団」（1940年）を事例に	
武井 勲（日本大学）	第二次世界大戦期の米国テキサス州におけるケネディ収容所と収容者の実態—敵性外国人の収容所として稼働した期間に着目して—	
天野 剛至（常葉大学）	日系カナダ人の強制収容所間俳句ネットワーク—その成り立ちと展開、意義—	
岡本 洋之（兵庫大学）	1889年にカリフォルニアで日本人の華僑差別に反対した竹川藤太郎に関する基礎研究—故郷・山梨の教育史と自由民権運動史から考える青少年期の履歴—	
B 会場（1階 SK103）		司会：坪谷 美欧子、李 定恩
盤 大琳（早稲田大学（院））	日本における中国にルーツを持つ第2世代のアイデンティティと影響要因	
加藤 安人（愛知県立大学（院））	外国人エンジニアの日本での就業における「ライフスタイル移民」要素に関する考察—中国人エンジニアへのインタビューを中心に—	
胡 嘉原（上智大学（院））	在日中国人ニューカマーの食文化と生活戦略—Z世代を中心に—	
安里 陽子 （岐阜工業高等専門学校）	シンガポールのパイン産業発展における華人の役割—19世紀後半から太平洋戦争までの時期を中心に（仮）	
C 会場（1階 SK104）		司会：徳永 悠、劉 昊
貞安 薫（お茶の水女子大学（院））	在日日系ペルー人第二世代の帰属意識と日本語学習への影響に関する考察	
柳川 大貴（一橋大学（院））	移民の構造的同化とエスニック・コミュニティの変容—神奈川県横浜市における在日朝鮮人の子ども会 A からの考察	
松本 美香子（早稲田大学（院））	外国人宣教師の語りからみる他者の死の経験と意味づけ	
渡邊 倫（東京大学（院））	日本人移民・移住者が出身地域に遺した文化遺産に関する調査研究	
D 会場（1階 SK105）		司会：山本 めゆ、藤浪 海
土井 智義（明治学院大学）	米国統治下における在沖奄美出身者の権利獲得運動：同郷組織の動向を中心に	
李 真熙（同志社大学（院））	「世界のウチナーンチュ」をめぐる—考察	
岡本 直美	米国統治下沖縄における土地闘争の越境的側面—「農民」と米国人	

(岐阜工業高等専門学校)	宣教師との関わりより—
東 悦子 (和歌山大学)	世界の和歌山県人会—木曜島和歌山県人会結成の背景とその意義—

E 会場 (1階 SK106) 司会：ガラシーノ・ファクンド、長村 裕佳子	
フェリッペ・モッタ (京都外国語大学)	渡伯して住まう場所—戦前日系ブラジル社会における「住居」をめぐる言説と表象—
オオヌキ・ジュン(一橋大学(院))	コミュニティを変容するディアスポラ構築メカニズム——ブラジルにおける和太鼓の普及
番匠 健一(社会理論動態研究所)	戦後北海道のブラジル移民と在ブラジル北海道協会の活動

F 会場 (1階 SK107) 司会：孫片田 晶、グスターボ・メイレス	
中島 咲寧 (京都大学 (院))	港町から見る交易ディアスポラの現在—マレーシア・ペナン島のタミル系ムスリム・コミュニティを事例に
竹中 歩 (一橋大学)	「交易ディアスポラ」としての日系人：日秘間の綿花貿易と移民の役割 (1920-1950s)
城 渚紗 (東京大学 (院))	サハリン残留コリアンをめぐる韓国・ソ連・サハリン州政府の接触と交渉
赤松 美和 (同志社大学 (院))	ハワイアン・ボード (Hawaiian Evangelical Association) によるフレンド平和奨学金 (Friend Peace Scholarships) の日本留学支援への道—外国語学校取締法案違憲判決 (1927) 後のハワイ社会における日本語学校の動向—

◆ラウンドテーブル

ラウンドテーブル A (1階 SK102)	
環太平洋の移民・移住をめぐる歴史研究の最前線	
モデレーター：李 里花 (中央大学)	
包括的な移民・移住の歴史叙述—『南北戦争を戦った日本人 幕末の環太平洋移民史』(筑摩書房、2023年9月)における一次史料を通じて見えてきたこと	
菅 (七戸) 美弥 (東京学芸大学)	
出国者を包摂する近現代の送出国家と社会を考える—1949年以前の中国の華僑政策と“越境政治”の国際比較共同研究から	
園田 節子 (立命館大学)	
コメント	加藤 (磯野) 順子 (早稲田大学)
コメント	李 里花 (中央大学)

ラウンドテーブル B (1階 SK103)

現場に身を置いて何ができるか—移民の子どもたちへの学習支援を通して—

モデレーター：徳永 悠 (京都大学)

多元的ポジショナリティを有効利用する：Minami こども教室における実践と研究

原めぐみ (和歌山工業高等専門学校)

実践者であること、研究者・取材者であること：外国ルーツの子どもの支援教室から考える

玉置 太郎 (朝日新聞社)

ラウンドテーブル C (1階 SK104)

戦前期愛媛県からのブラジル移住におけるグローバル・ジェンダー・子どもの観点—歴史総合教育を意識して—

モデレーター：飯田 耕二郎 (元大阪商業大学)

俵津ブラジル移住団送出の背景とプロセス

木村 健二 (元下関市立大学)

神戸からブラジルへの航路体験と現地での動向

根川 幸男 (国際日本文化研究センター)

移住女性への期待と実態

名村 優子 (立教大学)

ラウンドテーブル D (1階 SK105)

外国につながる若者のキャリア教育と進路

モデレーター：小林 宏美 (文京学院大学)

特別枠校におけるキャリア教育実践—教員・支援者の視点から

宮下 大輝 (慶応義塾大学 (院))

外国につながる高校生はどのように日本のキャリア教育を理解したか—進路選択における母語・母文化の活用の事例から

坪谷 美欧子 (横浜市立大学)

外国につながる若者の社会関係資本と進路—社会的ネットワークが若者の進路に与えた影響の分析から

小林 宏美 (文京学院大学)

コメント

藤浪 海 (関東学院大学)

ラウンドテーブル E (1階 SK106)

日系コミュニティ・アーカイブスとつくるパブリック・ヒューマニティーズ：日米史料館の横浜正金銀行関連資料を中心に

モデレーター：佃 陽子 (成城大学)

日本の輸出を支えたサンフランシスコの日系企業：横浜正金銀行の晩餐招待客資料から

上田 薫 (スタンフォード大学)

在外同胞に投資しない国家？：横浜正金銀行支店・分店長たちと日系移民社会

前田 亮介（北海道大学）

横浜正金銀行による北カリフォルニア日本人米農家への資金援助について：1920年代初頭に最大規模の農場を運営したユニオン米作会社との関係から

東 栄一郎（ペンシルヴァニア大学）

横浜正金銀行の郷里送金票にみる戦前の在米日本人移民のトランスローカルなネットワーク

佃 陽子（成城大学）

戦前期における日系教育施設の役割：サンフランシスコ・金門學園を中心に

森本 豊富（早稲田大学）

ラウンドテーブル F（1階 SK107）

アジアにおける親密性の再編と「自己」の再構築

モデレーター：李 定恩（立命館大学）

移住女性の越境的な出産行動と親密圏の形成について

大野 恵理（獨協大学）

在日タイ女性の高齢化と親密圏の再構成——日本とタイのジェンダー規範のはざままで

新倉 久乃（和光大学）

北京における中国朝鮮族高齢者の主体的な活動——老人協会を中心に

南玉瓊（お茶の水女子大学）

ケア労働としてのフィリピン人英語講師の経験と主体形成

李 定恩（立命館大学）

ラウンドテーブル G（1階 SK108）

<移民>とはなにか？ 帝国の狭間に生きる在日コリアンと日系アメリカ人の映像作品、芸術活動から考える

モデレーター：李 真熙（同志社大学（院））

在日コリアン社会を見つめた英語ドキュメンタリー番組から<移民>にとっての国家を考える

李 真熙（同志社大学（院））

太平洋戦争における日系アメリカ人の徴兵拒否と、ベトナム戦争におけるベトナム人による徴兵拒否のナラティブの比較から移民の国家への帰属・忠誠心、（帝国主義）を考える

高橋 侑里（同志社大学）

ラウンドテーブル H（1階 SK109）

ブラジル系ディアスポラ研究の最前線：英国の移民研究者から学ぶ

モデレーター：アンジェロ・イシ（武蔵大学）

Coloniality of migration: Brazilians in London & Africans in São Paulo

Angelo Martins Jr（University of Birmingham）

■ 交流スペース・クロークについて

参加者が交流できる交流スペース (SK113、SK114) と荷物を置けるクローク (SK111) がありますので、必要に応じてご利用ください。

■ 昼食について

開催校周辺のコンビニや飲食店をご利用ください。

■ 日本移民学会第 34 回年次大会 割引販売 (明石書店) について

- ・ 期間：6 月 22 日～6 月 30 日
- ・ 価格：税込価格から 2 割引 (国内送料込)
- ・ 販売フォーム：大会までに周知

※ ご注文を確認次第、eigyo@akashi.co.jp よりメールをお送りいたします。

■ 託児サービスについて

学会参加のために託児サービスを利用される参加者には、託児料の一部を補助する制度があります。詳細は移民学会 HP をご確認ください。

■ 特別な配慮について

学会参加にあたり、特別な配慮やお手伝いが必要な方は、学会の 1 ヶ月前 (5 月 22 日) までに希望内容を大会企画委員会までお伝え下さい。ご要望内容を検討させていただきます。

■ 大会会場について

大会会場の同志社大学烏丸キャンパス志高館は、同志社大学今出川校地の一部です。

所在地：京都市上京区烏丸通上立売上ル相国寺門前町 647-20

会場の詳細やアクセスは以下でご確認ください。

https://www.doshisha.ac.jp/information/imadegawa/karasuma_map/index.html

大会企画委員：

永田貴聖、フェリッペ・モッタ、劉昊、グスターボ・メイレス、藤浪海、山本めゆ、徳永悠

開催校：

南川文里、和泉真澄、物部ひろみ、吉田亮、李定恩、南玉瓊